

授業科目 医療統計学演習

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2～3	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	後期	必修・選択	2必・3選・2必・3必・2選
	単位数	1	時間数	15(健康は前期末集中)

<概要> 医療統計学という厳密な概念はないが、前期で学んだとおり、保健・医療分野でよく用いられる、統計学的指標や検定方法について実例を検討し、一部コンピュータによる学習(CAD: Computer aid Instruction)を採り入れて理解を深め、将来証拠に基づいた医療(EBM: Evidence-based Medicine)にチームとして参加できる基礎を修得する。

<一般目標: GIO>

将来、証拠に基づいた(Evidence-based)チーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる、各種の指標や統計学的方法を理解し、正しい検定方法を適用できる。

<行動目標: SBO>

1. 医療統計学で学習した、各種の指標や統計学的方法を適用できる。
2. 正しい検定方法を適用できる(1.及び2.は医療統計学とほぼ同様である)。
3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。
4. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題
1	食中毒の原因究明 後ろ向き研究としてオッズ比の計算方法を演習する。 (オッズ比はEBMの基本と言って良い)	1, 2	演習、レポート提出
2	主要死因のSMR 担当の都道府県について主要死因のSMRを計算し、レーダー・チャートに表して担当の特徴を述べる。	3, 4	演習、レポート提出 (理由も考えられるとよい)
3	スクリーニングレベル 臨床検査で応用される感度及び特異度の求め方、また最近重視されてきた陽性反応適中度についても演習から学ぶ。	2-4	演習、レポート提出
4	アンケート調査まとめ アンケート集計した結果について、傾向性の検定や順序統計量の検定について演習によって学ぶ。	2-4	演習、レポート提出 (理由も考えられるとよい)
5	平均値の比較のまとめ 卒業研究時に最も多用されると思われる、2群の平均値の差の比較について、様々な検定方法とその適用を演習によって学ぶ。	2-4	演習、レポート提出
6	検量線と地域相関 検量線を描くとともに、地域相関研究の手法を学ぶ。	3, 4	演習、レポート提出
7	生命表分析 特に小数例で用いられるKaplan-Meier法について各自のデータを通して計算方法を学び、最後に図示して評価する。	3, 4	演習、レポート提出

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	医統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷・¥2,500+税
参考書				
その他の資料	毎回、簡単なマニュアルをプリントして配布する。 前記の「医療統計学」で配布したプリントを毎回持参すること。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
1. 毎回のレポートは出席点として考慮する。 2. 他の職種の問題に手を加えて、5者択一方式の小テストを実施する。	1. 前期の「医療統計学」を履修しない限り、単独では履修できない。 2. 前記の「医療統計学」で配布したプリントを毎回持参すること。 3. 電卓はプログラムから呼び出せるものの、あった方が計算が早いようである。

全科共通科目
医療福祉